



### 高名なお坊さん(その27)

## 重源上人(西暦1121年~1206年)平安時代末期から鎌倉時代の日本の僧

重源上人は、東大寺大勧進職として、源平の争乱で焼失した東大寺の復興を果たした。青年期は、醍醐寺で天台宗を学び出家。その後は、法然のもとで浄土宗を学んだ。浄土宗を信仰した重源は、民衆たちへの布教活動を行っていた。今まで知りたくても分からなかった仏教の教えをととても簡単に教えてくれる重源は、一躍民衆から大人気となったと言われている。

重源上人は、宋へ3度も留学した経験を持つ。当時は平清盛によって強力に推し進められていた日宋貿易が盛んになっていた時期で、宋船が頻繁に出入りしていた。宋で仏教の教えを学ぶとともに、宋で建築技術も学んだ。

民衆に慕われ、仏教に精通し、建築技術の知識もある重源上人は、まさに東大寺復興に最も相応しい人物だったと言える。

1180年に始まった東大寺の復興事業。1185年には大仏が完成。大仏開眼の儀式



俊乗房重源上人坐像(東大寺蔵)



大仏殿



「銅造盧舎那仏坐像」(大仏)

が行われ、後白河法皇が大仏の目を描いたと言われている。源平の争乱真っ最中に、大仏を再建できたのはやはり重源上人の人望である。

1195年には大仏殿も完成。1200年には東大寺南大門の再建。東大寺南大門の両脇に立つ金剛力士像を新たに製作したのが、有名な運慶・快慶である。



護持会会長の石原総代による開会挨拶



本堂廊下にて集合写真

設置して黙食、こんな感じが長かったせいかな、人の温かさ、心のぬくもりを余計に感じました。

裏に移り、酒宴を開催。コロナ禍で、人と会わない、人と距離をとる、会食時もアクリル板を

### 住職レター

毎年二月十一日(祝日)、善教寺門信徒世話人代表による総会(懇親会)を開催してきました。いつ頃から開催してきたか定かではありませんが、江戸時代後期頃から、近隣の門信徒総会(懇親会)を招いて懇親の酒宴を開催してきたと、祖母から聞いたことがあります。私が住職を継職した時は、善教寺世話係会という名称でした。現在は、善教寺護持会となっています。

ゆかりの寺シリーズ その30

今川義元 ゆかりの寺

「臨濟寺 (臨濟宗妙心寺派)」



臨濟寺は、駿河国の戦国大名・今川義元が眠る神廟、徳川家康が幼少期の人質時代に過ごした場所としても知られており、今川家・徳川家どちらも関わり深い名刹です。

今川氏親が出家した子の義元のために北川殿亭を善得院に改めたことに始まります。氏親の死後、義元の兄・氏輝が今川家の家督を継ぎますが、天文5年(1536)に急逝します。その後、家督を継いだ義元は、氏輝の菩提のため善得院を氏輝の法号(臨濟寺殿用山玄公)にちなんで臨濟寺と改称し、太原雪斎を住職として招きました。

今川家の人質となっていた竹千代(後の徳川家康)は、臨濟寺にて太原雪斎の教育を受けました。この地で受けた教育が、後の人生に大きな支えとなりました。

二度の戦火により焼失してしまいましたが、後の天正10年(1582)、勅命を受けた徳川家康によって今も残る本堂が再建されます。その後も代々江戸幕府からの庇護を受けました。



臨濟寺本堂 (大方丈)



今川義元



臨濟寺山門



今川義元・氏輝像と摩利支天像

「仏教婦人会報恩講」 (善教寺本堂)

三月一日(金)

午後一時半〜 追悼法要

午後二時〜 昼席

二日(土)

午前十時〜 朝席

午後一時半〜 総会

午後二時〜 昼席

講師 吉崎哲真師 (広島市佐伯区湯来町西法寺)

\* 仏教婦人会主催法要

\* 仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

三月 十六日(土) 午後一時半〜

\* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「柏原春季彼岸会」 (柏原説教堂)

三月二十二日(金)

昼席・夕席

講師 行友浩師 (東広島市高屋町造賀正願寺)

「花まつり」

「お釈迦様の誕生を祝う法要」 (善教寺本堂)

四月 六日(土)

午前十時〜 朝席

午後一時半〜 昼席

講師 堀靖史師 (東広島市志和町光源寺)



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)